

二〇二二年 夏号

海禅寺新聞

Vol.30

『海禅寺新聞』第30号

梅雨が明け、夏らしい季節がやってきました。さて、上田市民におなじみの夏行事、『信州上田祇園祭』、今年も新型コロナウイルス感染症の影響から中止の決定が出されました。そうした中ですが、海禅寺が位置する新田自治会では感染症に配慮して、独自の夏祭りを開催しました。そもそも祇園祭は京の都で発生した疫病の大流行を鎮めるために始まった祭礼です。この趣旨を思えば、今まさにこうした祇園祭の御利益にあずかりたいところです。今回は自治会所蔵の神輿一基を軽トラックに乗せて町内を巡行。そして各所で停留し、地域の方々に参拝していただく企画が整えられました。私副住職も同行し、停留場所まで到着を知らせる法螺貝を吹き鳴らししました。そうしたところが、小雨の中にも関わらず、地域の方々が続々と集まってくるではありませんか！当初の想定を超えた反



響に、一同嬉しさをいっぱいになりました。そしておいでになった方々に、自治会有志が独自に作成した木札御守を差し上げたのですが、皆さんとても喜んで受け取ってくださいました。また同時に自治会館では、自治会各団体が企画した子供向けの催しが開かれ、こちらも大盛況でした。

感染症は確かに恐ろしいものですが、長期戦の様相を呈してきた今だからこそ、工夫してできることを確実にやりたいものです。すべてにおいて萎縮しては、私達を根本から支える人と人との繋がりがまでもが失われてしまうことでしょう。

上田市内では他の自治会でもこうした取り組みが様々に開催されたそうです。こうした祭りや年中行事の機会を捉え、縁のある皆さんとの顔の見える関係を少しずつでも取り戻していきたいものですね。

『生きる力・105号』送付

おなじみ真言宗智山派が発行する情報誌「生きる力」を同封しました。今回から新しい連載が3本始まりました。

- 「梵字よもやま話」 (p.11)
- 「ニンゲンのつくり方」 (p.18)
- 「ウエルビーイング 心豊かに生きる」 (p.28)

こうした世情にあつて、本宗派も発信内容に知恵を絞っています。ぜひ他の記事と合わせてお読みください。

疫病護符あります

昨年、独自に作製をした疫病護符ですが、まだ若干寺にごさいます。ご希望の方におわけしますのでお申し出ください。

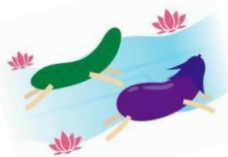
(一休500円)

施餓鬼会のご案内

恒例の施餓鬼会法要ですが、今年も昨年同様、別紙のような内容で行います。どうぞ内容をご確認の上、参加の仕方をご検討ください。

日程	令和3年8月12日(木)
時間	10時30分 諸報告
	10時40分 ミニ法話「永代供養墓」
	11時 施餓鬼法要
	11時40分 お塔婆授与

※海禅寺墓地にて塔婆立てが、古いお塔婆でいっぱいになっております場合は、それぞれの墓地脇に塔婆を寝かせ、積み置いてください。境内外墓ご利用のお檀家さんの古いお塔婆も、寺にご持参いただければお焚き上げし、読経供養いたします。(なるべくお盆中にお持ちいただければ幸いです)



海禅寺を会場にお葬式を

昨年よりご案内しているお寺でのお葬式ですが、今年になって三件のお用い在本堂でお勤めいたしました。いわゆるセレモニーホールではなく寺で、ご葬儀を行う理由が各家様それぞれに違いました。規模をご都合に合わせて調整して、海禅寺を会場にお葬儀を無事にお勤めし、亡き方をお見送りすることができました。

私ども寺側の所感として、お檀家さんであるご遺族様方と共に、亡き方の葬送の場を『一緒に造り上げている』感覚がありました。これはセレモニーホールでの葬儀

では、寺側と喪主様、そしてそのご家族とが接点を持つ時間帯が限られています。寺での葬儀は折りに触れて会場の設えについてご相談したり、時間の予定を調整したりとお話をする機会が多くあることが要因の一つだと思われれます。また大型のホールでは共有スペースなどで他の葬儀ご一行様と一緒にいる場面が多々ありますが、寺の場合はいわゆる「貸し切り」状態になりますので、じっくり葬儀の時間と向き合える点もよさかと思えます。また海禅寺は大星斎場(火葬場)まで極めて近い立地にあるため、移動が容易で、こちらもメリットの一つでしょう。加えて海禅寺は隣接する認定こども園 芙蓉園と共に、駐車場の整備を年々進めていますので、駐車スペースも十分確保できています。

このように菩提寺での葬儀とセレモニーさんの葬儀では、それぞれに特色がありますが、お檀家各位におかれましては、いざというときに選択肢の一つとしてご認識いただけましたら幸いです。



→お通夜荘厳例



←ご葬儀荘厳例



報告 第10回 聖天祭



去る5月16日(日)、10回目となる聖天祭を開催しました。依然としてコロナ禍と言われる世間の状態にあつて、祭りを実施してよいものかどうか直前まで悩みましたが、聖天祭に託す寺の思い、そして皆様の願いを表現する場と時間を止めてはいけないと、開催に踏み切りました。ただし感染症のリスクをできるだけ抑えるため、内容を調整し、各所に工夫を凝らしました。門前市「まんだらまーけつと」の出店数はこれまでで最小規模の27店舗とし、各出店の間隔を空けて配置するなど配慮をしました。また境内地での催しも最小限とい



→上部に張り巡らされている網状の飾りが羅網(らもう)です。七宝焼きなどの特殊技法で作られています。また十一面観音様はこれまでむき出しでお祀りされていましたが、今後はこの円筒形厨子に納められます。普段扉は閉じられており、聖天祭の際に限りご開帳いたします。

参道土塀の増設について

令和5年に迎える弘法大師 空海さまご生誕1250年に向けて、皆様それぞれにご理解ご協力をいただき、大変にありがとうございました。ご案内のように総本山智積院の慶讃事業に対する海禅寺割当金は無事に完納してございます。そして続きます海禅寺の慶讃事業についてです。7月21日に開かれた総代世話人会において決定した内容についてご報告いたします。

参道西側既存土塀の続きは、芙蓉園畑箇所までに5スパンの塀を新設する間隔があります。皆様からご志納いただいた浄財予算ではおおよそ4スパンを設置することができそうです。残る1スパンの塀については、寺の維持費と積立金から捻出することになりました。

そして参道東側土塀の新設と修行大師像裏側の古い既存塀の改修についてです。これについては住職が個人の積立金より志納させていただきます。まさに令和5年、住職は兼務寺院である常光寺の住職に就

任し、現在の海禅寺住職を勤めさせていただいてから50年の節目の年にあたります。これも檀信徒の皆様のお支えあつてのことです。こうした感謝の思いから、東側土塀にかかる費用の一切につきましましては、住職が請け負わせていただきます。どうぞ住職の意向をお汲み取りいただけましたら幸いです。すでにこれらの工事につきましましては業者への発注が完了し、今秋には本格的に工事が始まる予定です。

永代供養墓の進捗状況

これまでの海禅寺新聞で何度か話題にしてまいりました永代供養墓ですが、詳細がほぼ固まり、諸々動き出しています。当初、一般的な石工を基本とした墓所を

予定していましたが、ご縁のあつた安藤建築設計工房さんと様々に打ち合わせを進める中で、特殊な形状をした小さな木造円形のお堂を供養処として設けることになりました。お堂に入ると四方をはじめとする7箇所オリジナルのステンドグラスが施され、お堂の中央地面部分に納骨をする様式になります。ステンドグラスはすでに6作品が納品され、作品保護の建具を設けるために工房で保管されています。現在正面に掲げる一番大きな作品のデザインについて作家さんと副住職とで話し合いを進めているところです。

※このステンドグラスは、今年のお施餓鬼法要の際に本堂内でご参拝の皆様にご公開予定です。

今後は8月1日には建築場所の地鎮祭をお勤めし、着工となります。境内墓地参拝の折にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力の程、よろしくお願いたします。予定では11月中旬に建物引き渡し、令和3年11月23日(火・祝日)の人形供

養会の前に、落慶法要を勤修予定です。合わせてこの永代供養墓の規約等も整備しております。諸々整い次第、檀信徒の皆様にご案内いたします。どうぞよろしくお願いたします。

ラジオ出演

副住職が和歌山県のラジオであるFMはじめとの番組『ラジオ寺子屋・高野山』に3週に渡って出演しました。僧侶になるまでの経緯から学生時代のこと修行時代のこと、そして聖天祭や海禅寺に対する思いについて話をさせていただきました。放送は既に終了していますが、インターネット上の「FMはじめと」YouTube(ユーチューブ)で聴くことができます。檀信徒の皆様にお聞きいただくには正直申し上げてお恥ずかしい内容が多分にありますが、念のため、告知いたします。

YouTube : fmasimoto
<https://www.youtube.com/user/fmasimoto>

※5月22日、29日、6月5日の放送分です



開催前から様々に話題沸騰の東京オリンピックがつかいに開幕しました。皆様もご意見はそれぞれにおありのことと思います。報道を見ると、オリンピックに対してかなり批判的な意見も散見されます。ただ開幕した以上は、これまで各選手たちが蓄積してきた偽りなきトレーニングの頑張りによって応援したいものだと感じています。ただでさえ息苦しいコロナ禍にあつて、これ以上の対立軸をこしらえていみ合うなど不毛なことだと、我が頭を撫でながら思うのです。

